

平成20年度 滋賀県立高等学校入学者選抜に関するまとめ

- 平成20年度滋賀県立高等学校入学者選抜において、推薦選抜実施校は、定時制1校を含む34校のべ40学科、特色選抜実施校は15校のべ19学科であった。
推薦選抜、特色選抜あわせて、6,299名が出願し、3,134名が入学許可予定者となった。
- 一般選抜では、平成15年度から、従来の志願登録制度を出願制度に改め、二次選抜を実施するとともに全日制課程と定時制課程を同一日程で実施している。学力検査においては、受検倍率1.11倍であった。また、出願変更率は7.7%であった。

<推薦選抜> ()は前年度

- 1 出願状況
募集枠2,080名に対して、出願者総数は、2,369名で、出願倍率は1.14倍(1.09倍)であった。
- 2 受検状況および入学許可予定者
受検者総数2,368名に対し、入学許可予定者総数1,884名で、合格率は79.6%(84.7%)であった。

<特色選抜> ()は前年度

- 1 出願状況
募集枠1,250名に対して、出願者総数は、3,930名であった。出願倍率は、3.14倍(3.24倍)であった。
- 2 受検状況および入学許可予定者
受検者総数3,915名に対し、入学許可予定者総数1,250名で、合格率は31.9%(31.0%)であった。

<一般選抜・学力検査> ()は前年度

- 1 出願状況
出願者数 8,345名(8,313名) 確定出願者数 8,297名(8,241名)
確定出願倍率
全日制1.13倍(1.11倍) 定時制0.69倍(0.67倍) 全・定あわせて1.11倍(1.10倍)
- 2 出願変更状況
出願変更者数 642名(うち辞退者48名)
出願変更率 7.7%(8.7%)
(1) 学科別出願変更率では、工業学科が14.0%と最も高かった。(前年度は商業学科が12.8%で最も高かった。)
(2) 学校出願を除く普通科の出願変更者数は、341名で、出願変更率は6.8%(8.6%)であった。
- 3 受検者数
受検者総数 8,259名
受検倍率 1.11倍(1.09倍)
全日制8,075名 1.12倍(1.11倍) 定時制184名 0.66倍(0.62倍)
- 4 入学許可予定者
(1) 学力検査による入学許可予定者数は、7,296名で、合格率88.3%(89.5%)
(2) 入学許可予定者数が募集定員に満たなかった学校および科
13校14科 (15校21科)

<二次選抜>

- 1 二次選抜募集校・科および募集定員
全日制9校9科 55名、定時制 4校5科 115名、全・定あわせて 13校14科170名
- 2 出願者数および出願倍率 188名(1.11倍)
- 3 受検者数および受検倍率 179名(1.05倍)
- 4 入学許可予定者数および合格率 116名(64.8%)

<入学許可予定者総数および実入学者数> ()は前年度

入学許可予定者総数 10,546名 実入学者数 10,536名
定員充足率 99.4%(99.0%)

平成20年度

滋賀県立高等学校入学者選抜結果のまとめ
(全日制・定時制・通信制)

滋 賀 県 教 育 委 員 会

[全日制の課程および定時制の課程]

1 募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について

(1) 推薦選抜、特色選抜の結果

表1は推薦選抜、特色選抜の出願者数、入学許可予定者数等を示したものである。

推薦選抜実施校は、定時制1校を含む34校40学科（普通科20、専門学科14、総合学科6）であった。特色選抜実施校は、15校19学科（普通科13、専門学科6）であった。選抜は、同一日の2月6日に実施した。

推薦選抜出願者の中学校別内訳は、県内の中学校105校中101校（昨年度105校中99校）、県外の中学校は31校であった。出願者数は、普通科で943人（昨年度938人）、農業学科で263人（昨年度220人）、工業学科で193人（昨年度153人）、商業学科で303人（昨年度336人）、家庭学科で106人（昨年度114人）、体育学科で52人（昨年度47人）、美術学科で55人（昨年度47人）、国際学科で35人（昨年度40人）、総合学科で419人（昨年度393人）であった。この結果、出願者数合計は、2,369人（昨年度2,288人）となり、出願倍率（募集枠に対する出願者の割合）は、推薦を実施した普通科では1.09倍（昨年度1.06倍）、専門学科では1.23倍（昨年度1.17倍）、総合学科では1.06倍（昨年度0.99倍）となり、実施学科全体では1.14倍（昨年度1.09倍）であった。この結果、1,884人が入学許可予定者となり、合格率は79.6%（昨年度84.7%）であった。

一方、特色選抜出願者の中学校別内訳は県内の中学校105校中103校（昨年度105校中103校）、県外の中学校は13校であった。出願者数は、普通科で3,388人（昨年度3,148人）、工業学科で410人（昨年度391人）、理数学科で60人（昨年度74人）、音楽学科で42人（昨年度44人）、福祉学科で30人（昨年度33人）であった。この結果、出願者数合計は3,930人（昨年度3,690人）となり、出願倍率は、特色選抜を実施した普通科では3.61倍（昨年度3.81倍）、専門学科では1.74倍（昨年度1.74倍）となり、実施学科全体では3.14倍（昨年度3.24倍）であった。この結果、1,250人が入学許可予定者となり、合格率は31.9%（昨年度31.0%）であった。

結果、推薦選抜、特色選抜合わせて3,134人が入学許可予定者となり、合格率は49.9%（昨年度51.6%）であった。

表1 推薦選抜、特色選抜出願者数・入学許可予定者数等

項目	募集定員	募集枠		出願者数 B	受検者数 B'	出願倍率 B/A'	許可予定者数 C	合格率 C/B' (%)		
		%	人数A'							
学科	A	%	人数A'	数 B	数 B'	率 B/A'	者数 C	C/B' (%)		
推薦選抜	普通科	3,520	15~30	868	943	943	1.09	765	81.1	
	専門学科	農業	440	50	220	263	263	1.20	218	82.9
		工業	440	30~50	196	193	193	0.98	152	78.8
		商業	480	50	240	303	303	1.26	229	75.6
		家庭	160	35~40	60	106	106	1.77	60	56.6
		体育	40	75	30	52	52	1.73	30	57.7
		美術	40	75	30	55	55	1.83	30	54.5
		国際	80	50	40	35	35	0.88	31	88.6
	小計	1,680		816	1,007	1,007	1.23	750	74.5	
	総合学科	1,080	30~40	396	419	418	1.06	369	88.3	
合計	6,280		2,080	2,369	2,368	1.14	1,884	79.6		
特色選抜	普通科	3,440	20~30	938	3,388	3,375	3.61	938	27.8	
	専門学科	工業	520	40~50	232	410	409	1.77	232	56.7
		理数	80	50	40	60	59	1.50	40	67.8
		音楽	40	50	20	42	42	2.10	20	47.6
		福祉	40	50	20	30	30	1.50	20	66.7
	小計	680		312	542	540	1.74	312	57.8	
合計	4,120		1,250	3,930	3,915	3.14	1,250	31.9		
総合計	10,400		3,330	6,299	6,283	1.89	3,134	49.9		

(2) 一般選抜の結果

3月5日に実施した一般選抜は、学力検査定員7,466人に対し、確定出願者数は8,297人であり、確定出願倍率は1.11倍であった。この結果、7,296人が入学許可予定者となり、合格率は88.3%であった。

3月18日に実施した二次選抜は、二次選抜定員170人に対し、受検者数は179人であった。この結果、116人が入学許可予定者となり、合格率は64.8%であった。

表2 一般選抜出願者数・入学許可予定者数等

項目		年度	平成20年度	平成19年度
学力検査	学力検査定員 A		7,466	7,525 *(7,526)
	出願者数		8,345	8,313
	確定出願者数 (倍率)		8,297 (1.11)	8,241 (1.10)
	受検者数 B (倍率)		8,259 (1.11)	8,203 (1.09)
	不合格者数		963	863
	入学許可予定者数 C		7,296	7,340
	合格率 C/B (%)		88.3	89.5
二次選抜	二次選抜定員 A-C		170	186
	出願者数		188	165
	受検者数 D (倍率)		179 (1.05)	160 (0.86)
	不合格者数		63	64
	入学許可予定者数 E		116	96
	合格率 E/D (%)		64.8	60.0
合計			7,412	7,436

*平成19年度については推薦入学許可予定者で1名辞退があったため、()に実数を表す。

(3) 入学者選抜の結果

3月12日に発表した県立高等学校全日制および定時制の課程の入学許可予定者数は10,430人であり、その内、推薦選抜による者は1,884人、特色選抜による者は1,250人、一般選抜による入学許可予定者数は7,296人であった。また、3月21日に発表した二次選抜による入学許可予定者数は116人であり、県立高等学校全日制および定時制の入学許可予定者を合わせて10,546人となった。そのうち、全日制では募集定員10,320人に対して入学許可予定者数10,317人となった。

4月8日における県立高等学校全日制および定時制の課程の実入学者数は10,536人で、募集定員の99.4%(昨年度99.0%)となった。

表3 入学許可予定者数等

項目		年度	平成20年度			平成19年度
			全日制	定時制	合計	
※県内中学校卒業予定者数					14,110	13,921
募集定員 A			10,320	280	10,600	10,600
推薦選抜入学許可予定者数						1,937 *(1,936)
			1,882	2	1,884	
特色選抜入学許可予定者数			1,250	—	1,250	1,138
一般選抜入学許可予定者数			7,133	163	7,296	7,340
二次選抜入学許可予定者数			52	64	116	96
総計	入学許可予定者総数		10,317	229	10,546	10,510
	実入学者数 B				10,536	10,499
定員充足率 B/A (%)					99.4	99.0

※県内中学校卒業予定者数は各年度1月15日教育総務課調査による。

*平成19年度については推薦入学許可予定者で1名辞退があったため、()に実数を表す。

中高一貫教育に係る併設型高等学校の特例による入学許可予定者は除く。

2 学科別の受検者数、入学許可予定者数等について

県立高等学校全日制および定時制の課程を合わせて学科別にみると表4のようになり、実入学者数が募集定員を下回ったのは、普通科をはじめ農業学科、工業学科、商業学科、福祉学科の5学科（昨年度5学科）であった。

表4 学科別の受検者・入学許可予定者数等

項目		学科	普通	農業	工業	商業	家庭	理数	体育	音楽	美術	福祉	国際	総合	
募集定員	A	10,600	7,080	440	1,000	520	160	80	40	40	40	40	80	1,080	
推薦 選抜	募集枠(人数)	2,080	868	220	196	240	60	—	30	—	30	—	40	396	
	受検者数	B	2,368	943	263	303	106	—	52	—	55	—	35	418	
	入学許可 予定者数	C	1,884	765	218	152	229	60	—	30	—	30	—	31	369
	合格率	C/B	79.6	81.1	82.9	78.8	75.6	56.6	—	57.7	—	54.5	—	88.6	88.3
特色 選抜	募集枠(人数)	1,250	938	—	232	—	—	40	—	20	—	20	—	—	
	受検者数	D	3,915	3,375	—	409	—	—	59	—	42	—	30	—	
	入学許可 予定者数	E	1,250	938	—	232	—	—	40	—	20	—	20	—	
	合格率	E/D	31.9	27.8	—	56.7	—	—	67.8	—	47.6	—	66.7	—	
一 般 選 抜	学力検査定員														
	A-(C+E)	7,466	5,377	222	616	291	100	40	10	20	10	20	49	711	
	確定出願者数	8,297	*4,951	289	611	289	124	**	**	23	**	**	57	806	
	受検者数	F	8,259	*4,925	289	605	289	124	**	**	23	**	**	55	805
	入学許可 予定者数	G	7,296	5,313	222	534	268	100	40	10	20	10	19	49	711
	合格率	G/F	88.3	***	76.8	88.3	92.7	80.6	***	***	87.0	***	***	89.1	88.3
	二次選抜定員														
	A-(C+E)-G	170	64	—	82	23	—	—	—	—	—	—	1	—	—
	出願者数	188	108	—	71	9	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	受検者数	H	179	103	—	67	9	—	—	—	—	—	—	—	—
入学許可 予定者数	I	116	54	—	53	9	—	—	—	—	—	—	—	—	
合格率	I/H	64.8	52.4	—	79.1	100	—	—	—	—	—	—	—	—	
総 計	入学許可予定者	10,546	7,070	440	971	506	160	80	40	40	40	39	80	1,080	
	実入学者数	J	10,536	7,064	439	968	506	160	80	40	40	39	80	1,080	
	過不足	J-A	-64	-16	-1	-32	-14	0	0	0	0	0	-1	0	0
	定員充足率		99.4	99.8	99.8	96.8	97.3	100	100	100	100	100	97.5	100	100
前年度定員充足率		99.0	99.7	99.8	94.4	96.0	100	100	100	100	100	100	100	99.9	

* 学校出願の数を除いた数。

** 学校出願のため、普通科と専門学科を合わせて次の別表に示す。

*** 学校出願のため、学科ごとの合格率は算出できない。

別表 学校出願

項目		学科	普通	理数	普通	体育	普通	美術	普通	福祉
一 般 選 抜	学力検査定員	A-(C+E)	420	40	256	10	120	10	112	20
	確定出願者数		561		292		158		136	
	受検者数	D	560		291		158		135	
	入学許可 予定者数	E	420	40	256	10	120	10	112	19

3 学力検査における出願変更者数について

表5は、学科別の出願者数および出願変更者数等を示したものである。

出願者数8,345人に対し、出願変更者数は642人（昨年度721人）、出願変更率は7.7%（昨年度8.7%）となり、確定出願者数は8,297人であった。

各学科別の出願変更率は、工業学科の14.0%が最も高く（昨年度の最高は商業学科が12.8%）、次に、農業学科の12.0%であった。

表5 学科別の出願変更者数

(昨年度)

学 校 出 願 項 目	学 力 検 査 定 員	出 願 者 数 A	出 願 変 更 者 数 B (第1志望を 取り下げた数)	出 願 変 更 率 B/A(%)	確 定 出 願 者 数 C	出 願 変 更 者 数	出 願 変 更 率 (%)
* 普 通	4,469	4,985	341	6.8	4,951	440	8.6
農 業	222	299	36	12.0	289	14	6.4
工 業	616	593	83	14.0	611	31	6.4
商 業	291	288	21	7.3	289	43	12.8
家 庭	100	125	5	4.0	124	16	11.8
音 楽	20	23	0	0.0	23	0	0.0
国 際	49	41	1	2.4	57	2	4.5
総 合	711	798	49	6.1	806	54	7.1
学 校 出 願							
普通・理数	460	586	45	7.7	561	61	10.2
普通・体育	266	300	26	8.7	292	24	8.3
普通・美術	130	162	18	11.1	158	25	16.6
普通・福祉	132	145	17	11.7	136	11	8.1
合 計	7,466	8,345	642	7.7	8,297	721	8.7

* 普通科は学校出願を除く

4 学力検査における面接・作文・実技検査について

点数化する面接を実施した学校は全て全日制の課程で、愛知高等学校、北大津高等学校（国際文化科）、湖南農業高等学校、八日市南高等学校の4校のべ9科（昨年度は5校のべ10科）であった。また、受検生の関心・意欲をみるための点数化しない面接を実施した高等学校は、全日制の課程で、北大津高等学校（普通科）、甲南高等学校、安曇川高等学校、信楽高等学校、石部高等学校の5校のべ8科（昨年度は4校のべ7科）、定時制の課程では、大津清陵高等学校の昼間部・夜間部であった。実技検査を実施した学校は、八幡工業高等学校、草津東高等学校（体育科）、栗東高等学校（美術科）の3校のべ7科（昨年度とおなじ）であった。

なお、作文については実施校はなかった。

5 学力検査について

(1) 出題の方針等

各教科の学力検査問題は、平成15年度入試から全日制と定時制の課程が同一日程での実施となっており、本年度も同一問題で実施した。中学校学習指導要領に示された内容に基づき、単なる知識量をみるのではなく、学校で学んだ知識を基礎に、表現力や判断力・思考力をみるための設問を多くするなど、工夫を凝らして問題の作成に当たった。

国語では、様々な種類の文章を素材にして、内容を的確に読み取る力、考えを明確に書き表す力、言語事項に関する力をみることをねらいとした。

数学では、数量・図形などに関する基礎的な概念や原理・法則を理解しているかをみるとともに、事象を数理的に考察する力や見通しをもって数学的に表現・処理する力をみることをねらいとした。

社会では、地理的事象や歴史的事象、社会的事象について、地図やグラフ、図表などの各種の資料を活用して考察し、判断する力や適切に表現する力をみることをねらいとした。

理科では、身のまわりの事物・現象を調べる観察、実験を通して、自然のしくみやはたらきについて理解できるかをみることをねらいとした。

英語では、初歩的な英語を聞くことや読むことを通して、話し手や書き手の意向を理解する力、自分の考えを英語で表現する力などの、実践的コミュニケーション能力をみることをねらいとした。

(2) 配点等

配点は、各検査教科100点満点を標準とし、5教科で500点満点とした。また、記述式の問題等では、学校の状況に応じて部分点を与えるなど、採点に幅を持たせた。

学力検査実施教科の配点に比重をかける傾斜配点は、膳所高等学校理数科で数学と理科の配点を120点（5教科合計で540点満点）、水口高等学校国際文化科で国語と英語の配点を150点満点（5教科合計で600点満点）とし、草津東高等学校体育科は国語、数学、英語の3教科のうち得点の高い2教科を150点満点（5教科合計で600点満点）とした。

また、八幡工業高等学校では、社会の検査に代えて実技検査を実施した。

(3) 検査成績

総合得点については、傾斜配点や面接を実施した学校があり、学校ごとに満点値が異なるため、全体としてのまとめは行わなかった。

各検査教科ごとの受検者の平均点は国語52.2点、数学32.8点、社会48.5点、理科45.5点、英語50.3点であった。

[単位制 転・編入学、通信制の課程]

募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について

単位制の課程の昼間部で実施した転・編入学については、44人（昨年度35人）の出願者があり、定員40人に対し1.10倍（昨年度0.88倍）の倍率となった。また、通信制の課程については、定員320人のところ一次選抜では、226人の出願者（昨年度191人）に対して、225人（昨年度191人）が入学許可予定者となった。また、二次選抜では、101人（昨年度63人）が入学許可予定者となり、合計326人（昨年度254人）が入学許可予定者となった。

表6 募集定員，志願者数，入学許可予定者数等

年度	項目	一次選抜				辞退者 D	二次選抜		合計	
		募集定員 A	出願者数 B	入学許可 予定者数 C	率 C/A		出願者数	入学許可 予定者数 E	入学許可 予定者数 F=C-D+E	募集定員 との差 F-A
平成 20 年度	転 編 入	40	44	40	1.00	0	—	—	40	0
	通 信 制	320	226	225	0.70	0	101	101	326	+6
平成 19 年度	転 編 入	40	35	35	0.88	0	2	2	37	-3
	通 信 制	320	191	191	0.60	0	63	63	254	-66

国 語

1 出題方針

中学校学習指導要領（国語）に示された内容に基づき、国語を適切に表現し正確に理解する基礎的な力をみるようにした。

また、様々な種類の文章を素材にして、内容を的確に読み取る力、考えを明確に書き表す力、言語事項に関する力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「明快な主題を持つ文章で、受験生の率直な読解を導く良い出題構成であった。」「茶道の本質を洗練された文体で描く名文であり、また古典的な要素も含んでおり、課題文としては優れたものであった。」「設問の内容についても、ねらいが明確であり、筆者の考えを読み取る力、表現する力等を問う問題がバランスよく盛りこまれていた。」などの意見があった。

各問いについては、作文に関して「身近で書きやすいテーマであった。」「自分の提案を相手に納得させる表現力をみるのに適した設問であった。」などとする意見があった。

3 解答の分析

□において、漢字の問いについては、「姿勢」の書きの正答率が低い以外は、おおむね良好であった。指示語の内容を答える問いについては正答率が25.9%と低く、また、文脈の中における語句の意味を答える問いの正答率も33.5%にとどまった。しかしながら、適切な接続詞を選ぶ問いについては正答率が80.6%、文章全体の内容を読み取り答えを選ぶ問いについても正答率が67.4%とおおむね良好であった。主題が明快で、体験に基づいて読むことのできる文章については、その要旨をとらえる力が一定定着していると言えるが、今後とも文章に親しむ態度の育成を一層すすめるとともに、文章の展開に即して内容をとらえる力の育成など、国語を正確に理解する基礎的な力を身につけさせる必要がある。

□においては、漢字の問い以外のすべての問いの正答率が50.0%を下回っており、日本の伝統文化に対する筆者の見解が読み取れていない受験生が多く、古典を理解する基礎的な力、文章に表れている筆者のものの見方や考え方を的確に読み取る力のさらなる育成が望まれる。特に、全体を注意深く読み、要旨をまとめる力を必要とする設問の正答率が低いことから、筆者の考えを正しくとらえ、指示にしたがい字数内で要約する力のさらなる育成が求められる。

□の作文では、自分の考えをまとめ、適切に表現する力を求めた。身近なテーマであるために提案は明確に書かれていたが、具体的な説明や提案の理由が十分に書けていない解答が多く、正答率も昨年度よりは良好であったものの26.7%と低かった。このことから、今後とも、具体的に、しかも簡潔に自分の考えをまとめ、相手に正しく伝わるよう適切に表現する力のさらなる育成が望まれる。

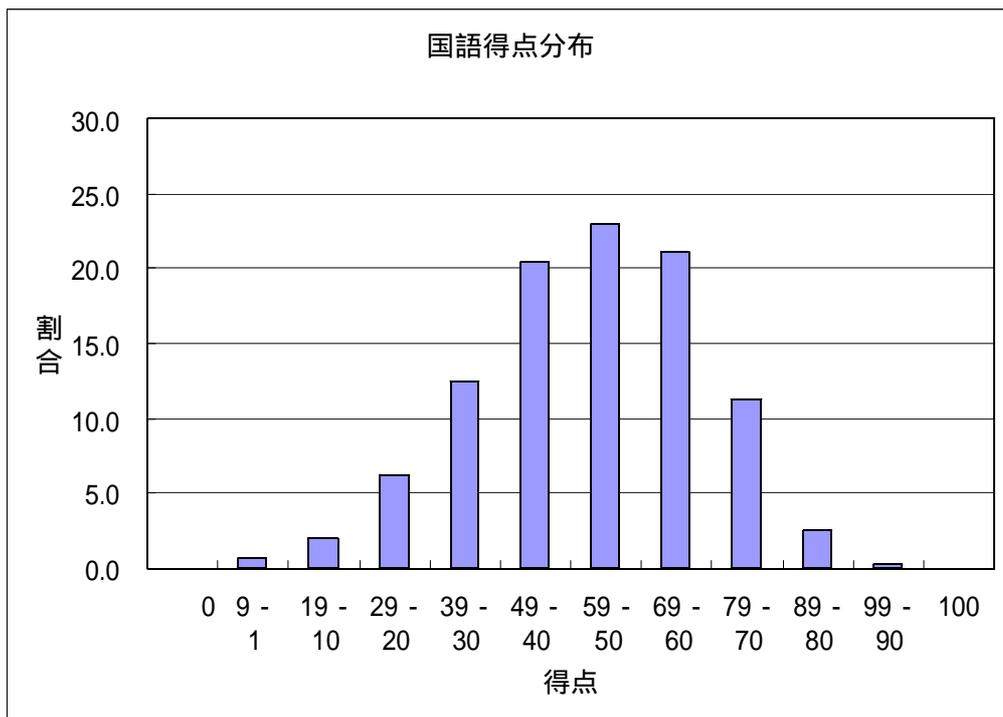
全体として、文章を正確に読み取り、書かれた内容を理解する力についてはおおむね身につけている。しかし、自分が理解した内容および自分が主張したい考えや思いなどを、指示された条件にしたがって書き表す力や、制限された字数内にまとめて適切に書き表す力についてはさらなる育成が望まれる。

国 語

問題区分			正答率 (%)
☐	1		69.2
			49.5
			84.8
			90.1
			91.2
	2	62.8	
	3	25.9	
	4	33.5	
	5	80.6	
	6	66.0	
	7	67.4	

問題区分			正答率 (%)	
☐	1		83.3	
			40.6	
			97.4	
			71.9	
			23.5	
	2	40.9		
	3	20.9		
	4	38.1		
	5	7.1		
	6	1.6		
	☐			26.7

年 度	平均点	標準偏差
平20 (100点満点)	52.2	16.2



数 学

1 出題方針

中学校学習指導要領（数学）に示された内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえながら、数学的な見方や考え方ができるかをみるようにした。

また、数量・図形などに関する基礎的な概念や原理・法則を理解しているかをみるとともに、事象を数理的に考察する力や見通しをもって数学的に表現・処理する力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「基本的な問題から数学的に考える力を問うような問題まで、幅広く出題されており、全体的に見て適切な出題であった。」「日常生活に見られる事象を数学的に考察し、授業で学習した内容を使って表現・処理できるかをみるのに適切な問題といえる。」「文章の読解力を必要とする問題、論理的な思考力を問う問題などに取り組みさせるには、もう少し時間を要する。」などの意見が寄せられた。

大問①、②については「平方根の計算、方程式の解、関数のグラフ等、基本的な内容が万遍なく出題されており、受験生の基礎学力を確認できた。」「面積や線分の長さの変化について、封筒の窓を利用した独特の問題はおもしろい。」「日常生活の中にある身近な事象の変化をじっくりと観察し考えることができる。」などの意見があった。また、大問③については、「図形の性質を論理的に考察させるのに適切な問題。」「平行四辺形の性質や回転角から三角形の相似を見抜くなど、様々な要素を問える問題。」などの意見があった。

3 解答の分析

①の数や式の計算、2次方程式の解、比例・反比例、円錐の体積の基礎的・基本的な問題については正答率が高く、よく理解できていた。正三角形状に並べた基石の数について考える問題は、具体的な条件のもとで見通しをもって連立方程式を立てて解く内容であったが、正答率が低く、数学的に表現し処理する力を育成する必要がある。また、観覧車を素材とした問題では、円周上に等間隔に並ぶ12個の点の位置関係をとらえて、垂線と 120° の角を作図したり、円周角の定理を利用して直角三角形となる確率を求めたりする小問の正答率が低く、数学的な見方や考え方をを用いて事象を数理的に考察する力を高めることが求められる。

②の窓のある封筒から色を塗り分けた画用紙を引き出したときの面積や線分の長さの変化について考察する問題では、図形的な思考をもとにして、引き出した長さや直角三角形の面積の関係を式に表したり、変化の様子を調べて数量関係を考察し、グラフに表現したりする内容であったが、正答率は低かった。身近な事象について、与えられた条件を的確にとらえ、数学の各領域の内容を関連づけ活用する力の育成が望まれる。

③の平行四辺形を回転させてできる平面図形についての問題では、具体的な条件のもとで角の大きさを求めたり、線分の長さを文字を使って表したりする小問も含め、三角形の相似の証明や、相似な図形の線分の比や三平方の定理などを組み合わせて三角形の面積を求める小問においても正答率が低かった。図形の性質を直観的にとらえたり見通しをもって論理的に思考し、根拠を明確にして推論の過程を表現する力の育成が求められる。

全体として、数や式の計算、方程式、関数、図形の計量等の基礎的・基本的事項や概念についてはおおむね理解できているといえる。今後は、基礎的・基本的な知識・技能を活用して、事象を数学的に表現・処理し、数理的に考察することを通して問題を解決する力を高めることが望まれる。

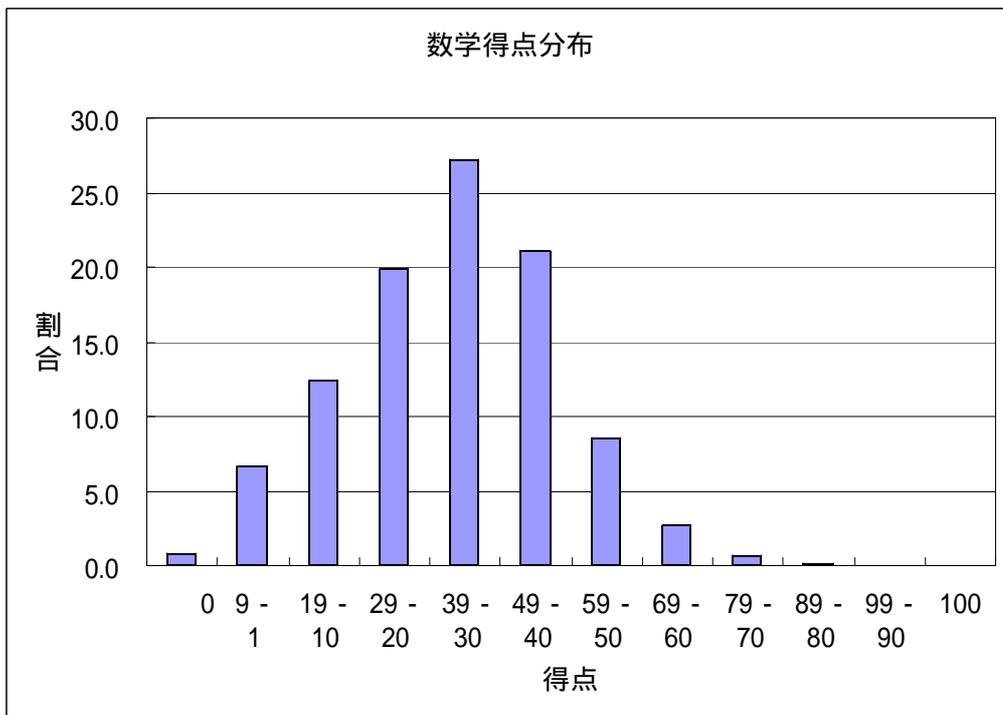
数 学

問題区分		正答率 (%)
1	(1)	9 6 . 1
		8 6 . 9
		7 5 . 6
		7 6 . 5
		7 3 . 6
	(2)	5 1 . 5
	(3)	5 9 . 2
	(4)	3 8 . 0
	(5)	1 0 . 8
	(6)	1 8 . 3
		1 8 . 7

問題区分		正答率 (%)
2	(1)	6 . 7
	(2)	2 . 4
	(3)	1 . 1
		0 . 1

問題区分		正答率 (%)
3	(1)	1 6 . 8
	(2)	2 . 6
	(3)	1 9 . 4
		0 . 6

年 度	平 均 点	標 準 偏 差
平 20 (100点満点)	3 2 . 8	1 5 . 1



社 会

1 出題方針

中学校学習指導要領（社会）に示された内容に基づき、地理、歴史、公民の三分野について、基礎的・基本的事項の理解をみるとともに、多面的・多角的な見方や考え方ができるかをみるようにした。

また、地理的事象や歴史的事象、社会的事象について、地図やグラフ、図表などの各種の資料を活用して考察し、判断する力や適切に表現する力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

「基礎的・基本的理解とともに資料を活用して解釈、表現する力をみることができる問題であった。」「地理的分野においては社会生活に必要な地理的認識を問う基本的な問題であり、雨温図や産額グラフなどのデータを用いて考察させる問題が多かった。」「歴史分野の論述問題は、資料の読解力に加え、因果関係を正しく理解したうえでないと答えられない良問であった。」「公民分野では、多くの国民が関心を寄せる事象や自分の生活の身近な事象に目を向けさせる問題が多くみられた。」「学習指導要領で求められている力を試そうとする問題が多くみられ、地理、歴史、公民の三分野の出題バランスも適切であった。」などの意見があった。

3 解答の分析

①は、略地図や地形図をもとに、地図上の長さから実際の距離を求めることや、地形の断面図、経度と時間などの基本的事項の理解をみるとともに、図表やグラフ、表から日本や世界の食料生産のようすや特徴ある気候などについて、多面的・多角的に考察して判断し、表現する力をみる問題であった。日本の食料生産や気候についての問題では、正答率が60%以上であり、資料を読みとるための基礎的・基本的な力はおおむね身につけている。しかし、地形図から断面図を描く問題や排他的経済水域について説明する問題では、正答率が10%台にとどまっており、今後は、地形図を読みとる力や、資料から読みとれることを適切に表現する力を育てていく必要がある。

②は、表と略地図、資料をもとに、歴史の大きな流れと各時代の特色についての基本的事項の理解をみるとともに、商工業のようすと社会の変化について多面的・多角的に考察し、判断する力や適切に表現する力をみる問題であった。歴史の流れや時代の特色、江戸時代の文化についての問題では正答率が50%以上であり、基礎的・基本的な事項の理解はほぼできている。しかし、蒸気機関と記述する問題は、正答率が10%台と低く、基本的な歴史用語を正確に記述する力を育てることが今後の課題である。

③では、表、図、資料をもとに、国会、社会保障制度等についての基本的事項の理解をみるとともに、国の歳入や歳出、租税について考察し、判断する力をみる問題であった。国会の種類や国の歳入や歳出についての資料を読みとる問題では60%を超える正答率であり、消費税を負担する者を問う問題の正答率も高かった。しかし、国会のしくみや三権分立についての問題は正答率が低かったことから、今後さらに民主政治のしくみを正しく理解し、適切に判断・表現する力を育てることが必要である。

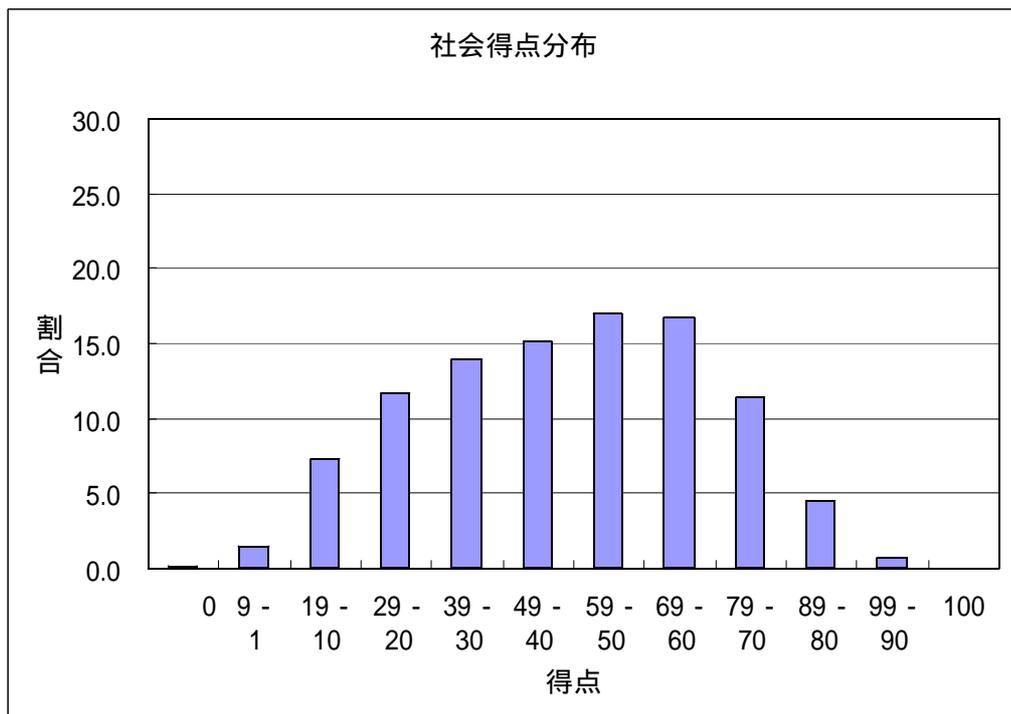
全体的に、地理、歴史、公民の各分野における基礎的・基本的事項についてはおおむね理解できている。しかしながら、今後は資料からさまざまな情報を適切に読みとる力を育成するとともに、社会的事象について多面的・多角的に思考・判断して表現する力を高めていく指導が望まれる。

社 会

問 題 区 分		正答率 (%)	
1	1	(1)	3 3 . 4
		(2)	1 6 . 5
		(3)	2 9 . 7
		(4)	1 4 . 4
	2	(1)	6 2 . 6
		(2)	6 7 . 6
		(3)	4 8 . 3
	3	(1)	3 5 . 3
		(2)	5 3 . 5
	2	1	
2		(1)	3 4 . 3
		(2)	5 4 . 9
3		(1)	4 2 . 5
		(2)	3 9 . 6
		(3)	7 7 . 6
4		生産されたもの	3 1 . 6
		動力	1 3 . 9
5		(1)	4 1 . 6
		(2)	2 3 . 7

問 題 区 分		正答率 (%)	
3	1	(1)	6 4 . 7
		(2)	7 3 . 7
		(3)	1 6 . 8
		(4)	2 1 . 7
	2	(1)	7 1 . 0
		(2)	5 5 . 4
			8 0 . 0
		(3)	2 6 . 6

年 度	平 均 点	標 準 偏 差
平20(100点満点)	4 8 . 5	2 0 . 3



理 科

1 出題方針

中学校学習指導要領（理科）に示された内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえながら、自然の事物・現象について科学的な見方や考え方ができるかをみるようにした。

また、身のまわりの事物・現象を調べる観察、実験を通して、自然のしくみやはたらきについて理解できるかをみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

「身近な植物や身のまわりにあるものを使った観察、実験の結果から考察していく構成で、科学的な思考力を問う工夫が見られた。」「観察、実験の理解度を段階的にはかることができるよう配慮された問題であった。」「物理、化学、生物、地学の各分野からバランスよく出題されており、各問とも図や表を組み合わせ、その解釈や自分の考えを表現する力を問うような工夫がなされていた。」などの意見があった。

3 解答の分析

①では、植物が葉脈や根の形状の特徴によって分類できることや蒸散を行う器官、蒸散によって根が水を吸収するはたらきがさかんになることなど、蒸散に関する基礎的な事項は理解度が高い。しかしながら、蒸散によって植物から出ていく水の量を実験結果と関連づけて考察する問題では正答率が低く、今後さらに実験や観察の結果を総合的に考察する力の育成が望まれる。

②では、観測記録から南中高度が求められることや、天球上の太陽の通り道が季節によって変化することなど、天球上の太陽の動きについての基本的な事項を問う問題は正答率が高く、おおむね理解できているといえる。しかしながら、太陽の日周運動が地球の自転による相対的運動であることを考察する問題や、観察結果を別の事象にあてはめて考察し、記述する問題は正答率が低く、今後さらに自然を探究する力や結果を考察して表現する力を育成していくことが望まれる。

③では、二酸化炭素が水に溶けることやその水溶液が酸性を示すこと、酸とアルカリの中和によって塩が生じることなど、気体の性質や中和に関する基本的な事項を問う問題については正答率が高い。このことから、気体の性質や中和における基礎的な事項を理解することは、おおむね達成できていると考えられる。一方、反応する物質の量を変えたときに、生成する物質の量がどのようになるかを計算によって求めるなどの、化学反応における物質の量の関係を問う問題については正答率が低く、今後は、実験結果を分析し活用していく力の育成が求められる。

④では、記録タイマーの記録から台車の速さの変化を考察することや、平均の速さを求めること、物体の運動エネルギーの基礎について観察、実験を通して理解することなど、物体の運動やエネルギーに関する基本的な問題は正答率が高く、おおむね理解できているといえる。一方、運動エネルギーと位置エネルギーが相互に変換されることや保存されることを、実験の結果から考察し記述することや、図に表すなどの問題で正答率が低く、今後は実験結果についての的確に表現する力を育成することが求められる。

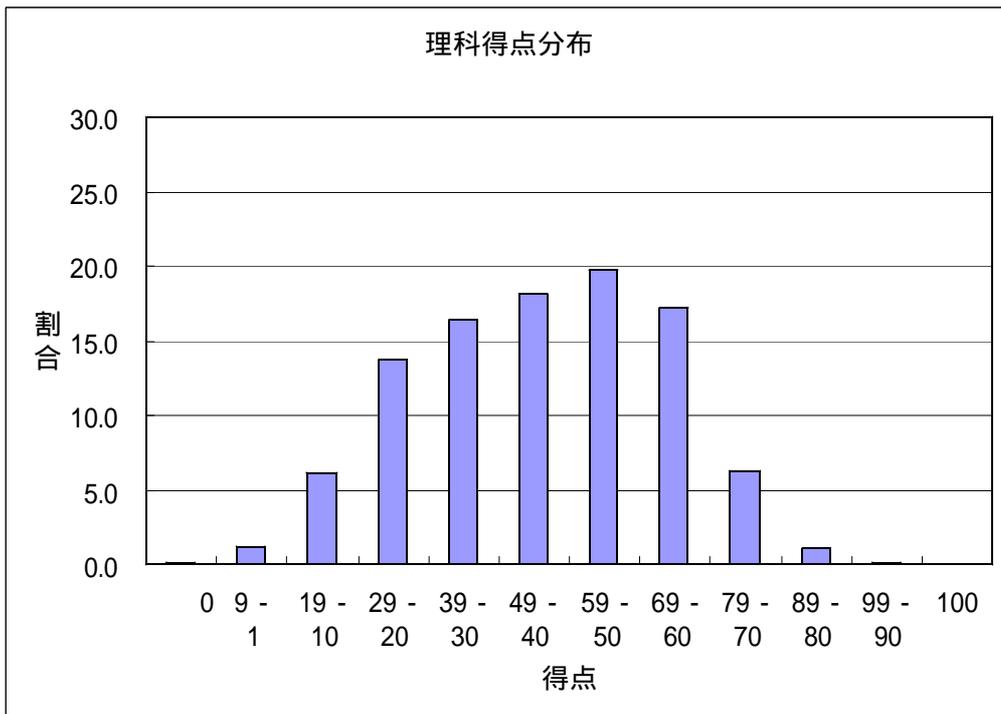
全体として、個々の基礎的・基本的な事柄や概念についてはおおむね理解できているといえる。しかし、事象を科学的に考察し認識する力や、その考察や認識を的確に表現する力はやや弱いと考えられる。今後も自然や日常の中に見られる事象に対して興味・関心をもち、基礎的な知識を基に科学的に考察し、探究する力と態度の育成が求められる。

理 科

問題区分		正答率(%)	
1	1	79.7	
	2	59.8	
	3	42.4	
	4	の部分	31.9
		の部分	22.5
	5	現象名	54.4
記号		75.7	
2	1	65.2	
	2	4.6	
	3	43.6	
	4	50.6	
	5	4.0	

問題区分		正答率(%)
3	1	22.2
	2	68.2
	3	67.9
	4	8.2
	5	14.5
4	1	70.2
	2	58.2
	3	68.3
	4	4.9
	5	29.8

年 度	平均点	標準偏差
平20 (100点満点)	45.5	17.6



英 語

1 出題方針

中学校学習指導要領（外国語）に示された内容に基づき、英語を理解し、英語で表現する基礎的な力をみるようにした。

また、初歩的な英語を聞くことや読むことを通して、話し手や書き手の意向を理解する力、自分の考えを英語で表現する力などの実践的コミュニケーション能力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

「日常的な場面の中で、実践的コミュニケーション能力を試す適切な題材と設問であった。」「自分で発信できる英語能力を試されていてよかった。」「コミュニケーション能力だけでなく、総合的な英語力を測る問題がバランス良く出題されていた。」「的確な文脈理解のうえで日本語や英語で答えさせる良問が多かった。」などの意見があった。

3 解答の分析

①の聞きとり問題では、絵を見て答えを選ぶ問題の正答率や、初歩的な会話の流れや内容を聞き取る問題の正答率が高く、中学校の授業で英語を「聞く・話す」活動に積極的に取り組ませている成果が現れている。しかし、前後の流れから内容を理解したり、相談に対する適切なアドバイスを英語で表現する問題では正答率が低かった。日頃から、相手が何を伝えようとしているのかを注意しながら聞くことや、多様な応答に慣れ親しむ指導を一層充実させることが望まれる。

②は、「日本の文化や慣習」についての手紙文を素材にした問題である。空所に適切な語を補ったり、話がどのように展開していくのか、大まかな流れや大切な部分をとらえて的確に読み取る力を問う問題の正答率に比べて、自分の考えを英語で適切に表現する問題の正答率は低かった。身近にある様々な話題について書かれた英文の内容を正確に読み取らせ、書き手の意向を理解して英語で適切に応じる機会を与えたり、実際に英語で手紙を書かせるなどの、コミュニケーション活動を重視した指導が求められる。

③は、生徒と先生の会話を題材に、英語の理解力や表現力などを総合的にみる問題である。日常会話における適切な応答表現を選択肢から選ぶ問題や、会話の流れを把握しているかどうかをみる問題では、50～70%程度の正答率であったが、語句を正しく並べかえる問題や、文脈に沿って内容を正確に把握して英問英答したり、場面や状況に応じて英語で適切に表現する力をみる問題の正答率は低かった。まとまった内容の物語や説明文で、中心となる事柄など大切な部分をとらえて的確に読み取らせる指導や、与えられた内容について、自分なりの感想や意見を読み手に正しく伝える活動を日常の言語活動において取り入れることが必要である。

全体的には、初歩的な英語を聞いて話し手の意向を理解する力や、英文を読んで大まかな流れをつかむ力は定着している。実践的コミュニケーション能力の基礎を養う観点から、自然な口調で話された英語を聞かせ、メモをとらせたあとに感想や意見などを書かせたり、書かれた内容を黙読し、その意味内容にふさわしく音声化させる音読練習などを取り入れることが大切である。

また、日々の活動においては、場面や状況に合った表現方法を身につけさせたうえで、表現しようとすることを個々の生徒が自ら考え、ふさわしい表現ができるよう配慮することが必要である。

英 語

問題区分		正答率(%)	
1	《その1》	1	77.2
		2	82.5
		3	57.6
	《その2》	1	76.5
		2	48.6
		3	36.5
		4	49.6
	《その3》	(1)	86.9
		(2)	78.9
		(3)	25.6
		(4)	61.4
	《その4》		18.5
2	1	47.5	
	2	19.1	
	3	45.2	
	4	21.7	
	5	48.0	
	6	32.5	

問題区分		正答率(%)	
3	1		65.9
			43.6
	2		51.4
	3		39.3
	4		56.5
	5		32.0
	6		33.3
	7	(1)	54.0
		(2)	10.8
8		56.8	
9		70.6	

年 度	平均点	標準偏差
平20(100点満点)	50.3	24.6

